

変化の激しい時代だからこそ 正確な時間を守り続ける

日本で最初の時計がつけられたのは 西暦672年

正確な時刻を知ることは現代人にとって欠かすことができません。正しい時刻を知らせてくれるのが時計です。日本で時刻制度が始まったのは大変古く、西暦672年（天智10年）に、天智天皇が近江神宮（滋賀県）に水時計（漏刻）を設けたのが最初とされています。その日を現在の暦に直すと6月10日になるということで、大正9年に時の記念日が制定されました。

ただし当時の時刻は現代のように正確なものではありませんでした。1日24時間、秒単位で時を刻む時計がつけられるようになったのは明治以降です。名古屋は江戸時代からからくり人形がたくさんつくられています。そうした技を応用して、時計の産地となっていきました。

正確な修理が販売の条件だった

柱時計や目覚まし時計に比べてはるかに小さな腕時計は、部品も細かく、小さな本体の中に隙間なく組み込まれています。かつて腕時計の価値を表す時に



「石」という言葉が使われました。歯車を支える芯に摩耗の少ない宝石がいくつ使われているのかを示します。石の数字が多いということは時計の精度もそれだけ高いということです。

愛知県時計貴金属眼鏡協同組合は時計を中心に、眼鏡や貴金属を扱う小売店の集まりです。時計を扱う店は販売と同時に修理も重要な仕事の一つです。そのための時計技能師という国家検定試験も設けられています。技術講習会の開催も組合活動の大切な仕事の一つです。時計は壊れた時に修理をするだけでなく、時には分解掃除をして常に正確な時間を表示するようにしていました。ところが昭和36年にそれまでのゼンマイ式に替わり電池で動く時計が出現します。その後もクォーツ、デジタル式、さらに電波時計など次々と新しい商品が誕生しました。そのため修理といっても部品を取り替えるだけという時計が増えてきました。より正確な時間が求められる時代だからこそ、正確な時間を守ることが求められています。



DATA ■愛知県時計貴金属眼鏡協同組合 名古屋支部

所在地：東区東桜二丁目15-28 小島ビル2階

- ・昭和初期：現在の組合の母体となる組織を設立
- ・昭和22年：名古屋時計商協同組合設立
- ・昭和30年：愛知県時計貴金属眼鏡協同組合設立
- ・平成21年：名古屋時計貴金属眼鏡協同組合と愛知県時計貴金属眼鏡協同組合が統一